**災害支援センター開設に向けて考えるべきこと**　　　　　　　　　　　　　　　　２０１６年１０月

１． **いつ、どういう状況でセンターを開設するか？**

　　情報収集、視察、誰がセンター開設を決断するか？二次災害の危険性も踏まえ、安全を確認してから一般の

　　ボランティアを募る。

２． **どこにセンターを開設するか？**　各災害シュミレーションにより、幾つかのパターンが考えられる。

　　　　　１） このネットワークエリアが全滅の場合。被災地外に開設する。（首都直下型地震など）

　　　　　２） 部分被災はあっても、被災地外の本部と連携して、現地ベースとして機能できる場合。（熊本）

　　　　　３） 東京の一部が被災し、このネットワークエリアは安全な場合。ネットワーク内に災害本部を立ち上

　　　　　　　げるケース。（荒川氾濫時など）

　　　　　４）社協のボランティアセンターに参加協力する。災害支援団体のセンターに参加協力する。（常総市）

３．**どの施設をセンターとして使うか？**

　　１）「意思決定チーム」と「実務チーム」が作業できるだけのスペースがあるか？意思決定チームが電話対応

　　　　　に忙殺されないように、実務チームを分けておく。

　　２）「物資の置き場」（及び駐車場スペース）や「ボランティア宿泊」のスペースがあるか？または、これら

　　　　　は必ずしも本部オフィスと同じ建物である必要はないので、近隣に使える施設を探すことも可能。

　　３）複数電話回線の使用が可能か。（被災者用、ボランティア用、情報提供用インターネット、スタッフ間、

　　　　センター間の連絡用）それに聴覚障害者用FAXなども。被害状況の事実などはホームページに掲載し、

　　　　いちいち電話応対しなくていいようにする。

４．**センター内にどういう部門が必要か？**

　　まず、災害時対応指令責任者（コマンダー）の元にコマンドチーム（意思決定機関）が作られる。

　　コマンドスタッフは以下の４つの役割部門のヘッドの集まりとなる。

　　１） 広報・ファンドレイズ　（祈り、経済的支援のための情報発信）

　　２）安全管理者　safety officer （放射能問題も含む）

　　３）リエゾン・渉外　（地域内、地域外の牧師、支援団体、社協などとの連絡、調整役）

　　４）チャプレン・心のケア　（支援センタースタッフやボランティアのケア）

クラッシュの場合、以下の実務スタッフ部門が設置された。

　　１） オペレーション　（リーダーと現場の間を指揮る、現地リーダーとの連絡）

　　２） ロジスティックス　（物資、倉庫、車の手配、海外からの物資の通関など）

　　３） ボランティア・コーディネーション（募集、スクリーニング、現地ニーズ把握）

　　４） 会計　（献金の管理、雇用者への給与支払いなど）

　　５） プランニング　（長期的なプラン、救援段階、支援段階、復興段階、計画と予算）

　　６） HR人事　（センターで雇うスタッフの面接、給料体系、人事管理）

　　７） 受付　（通常業務が中断されないため外来者や電話対応、一般電話応答する）

５．**コミュニケーション！コミュニケーション！**意思決定会議（コマンドチーム）や各部門責任者連絡会、

　　スタッフ全体会、朝デボーションなどで顔を会わせて、意思疎通を図る。現場と本部。諸教会、社協、海外。

６．**長期的なケアプラン**　（状況、被災者のニーズが刻々変化する。物資から心のケアへ）

　　会堂修理、礼拝協力、説教支援、牧師リトリート、継続的仮設訪問など

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（作成：クラッシュジャパン　栗原）